

令和4年度

仙台市遊びの環境に関する実証実験 報告

及び

遊びの環境の充実に向けて

令和5年3月

仙台市

目次

令和4年度遊びの環境に関する実証実験 報告

第1章 本実証実験の目的と背景	2
第2章 本実証実験の実施概要	
1. 本実証実験の方向性	3
(1) コンテンツ	3
(2) 会場	3
2. 実施会場・実施期間・実施内容	4
3. アンケート調査内容	4
第3章 実施結果	
1. 各会場の実施結果	5
(1) 七北田公園	5
(2) 出花体育館	6
(3) 水道記念館	7
(4) 青葉通駅前エリア	8
(5) 元気フィールド仙台	9
2. アンケート調査結果	10
(1) 会場ごとの集計	10
(2) ニーズ調査(会場共通)	15
(3) その他自由記述	16
第4章 実証実験のまとめ	
視点1. 自発的な行為としての遊びが生まれる環境	18
視点2. 会場に求められる要素	18
視点3. 遊び場として整備されていない場所の活用	18
視点4. 子育て家庭のニーズ	19
視点5. 会場を運営したプレーリーダーからの声	19

遊びの環境の充実に向けて

1. 調査・研究及び実証実験から	20
2. 遊びの環境の充実に向けた方向性	21
3. 今後の進め方	22

令和4年度遊びの環境に関する実証実験 報告

第1章 本実証実験の目的と背景

少子化の進行や共働き家庭の増加、地域におけるつながりの希薄化など、社会状況の変化によって、子どもの育ちや子育て家庭の生活に様々な影響が生じており、次代を担う子どもたちが健やかに成長し、子育て家庭が孤立せず、安心して子どもを産み育てることができるまちづくりが求められている。特に、子どもの遊びの環境の充実については、子育て家庭を中心に非常に高い関心が寄せられており、遊びを通じた子どもたちの心身の成長や保護者の育児負担の軽減という観点からも重要な施策である。

「令和2年度仙台市遊びの環境に関する調査・研究」では、子育て家庭への「保護者アンケート」や子育て支援団体・高校生などへのグループインタビュー、子どもの発達段階と利用頻度を軸とした遊びの環境の整理等により、本市の遊びの環境の特徴や子育て家庭のニーズ等を取りまとめた。

本実証実験は、令和2年度の調査を踏まえ、都市公園等に一時的に遊具等を設置する実証実験を時期、曜日、屋内・屋外などの複数の条件の下で実際に遊び場を展開することで、より詳細なニーズ等を把握し、今後の本市の遊びの環境の充実に向けた施策の検討を深めることを目的とする。

なお、実証実験で仮設する遊び場の利用対象年齢は、概ね幼児から小学生までとする。

「令和2年度仙台市遊びの環境に関する調査・研究」報告書
<https://www.city.sendai.jp/kodomo-somu/kurashi/kenkotofukushi/kosodate/shisaku/hokokusho/report2020.html>

第2章 本実証実験の実施概要

1 本実証実験の方向性

「子どもの遊び」は、「子ども自身の身体、心の自然な欲求に基づく、自らの成長を促す自発的な行為」であると捉え、以下の点に留意しコンテンツ及び会場を選定した。

(1) コンテンツ

自発的な行為としての遊びが生まれる環境についての必要な要素等を確認する。そのため、遊び方やルールが決められたコンテンツやワークショップなどのサービスを提供するのではなく、子どもが手を加えることで形が変えられる可変性のあるもの（段ボールや自然物等）の配置を主とする。併せて、遊びのニーズや保護者がリラックスできる環境についても確認する。

また、令和2年度調査では、年齢層の混在により安全面に不安を感じる保護者がいた一方で、利用できる年齢区分を細分化すると兄弟や姉妹連れでの利用が難しくなることを踏まえ、利用年齢層を想定して、乳幼児コーナーの設置をはじめ一定のゾーニングを行なうと同時に、できるだけ全体が見渡せると共に緩やかな相互乗り入れができるよう配慮する。

(2) 会場

令和2年度調査における「発達段階と利用頻度を軸とした遊びの環境の整理」において、週数回の利用が想定される「高頻度の遊び場（日常の遊び場）」及び年に数回の利用が想定される「低頻度の遊び場（レジャーやイベントの要素も含まれる非日常の場）」として整理した遊び場のいずれにも展開できるよう、月に数回程度の利用が想定される「中頻度の遊び場」を中心に会場を選定し、「子どもの遊び」を豊かにするために会場に求められる要素等を確認する。

また、本来は遊び場として整備されていない場所を活用した遊びの環境づくりの可能性について確認する。

2 実施会場・実施期間・実施内容

市内5箇所にて遊び場を仮設しアンケート調査を実施した。全会場に共通のコンテンツを用意するとともに、会場の特性や時期に応じた会場固有のコンテンツを配置した。

- | | | | |
|-----|-----------|------|---------------------|
| (1) | 七北田公園 | <屋外> | 5月20日(金)～23日(月) |
| (2) | 出花体育館 | <屋内> | 6月24日(金)～27日(月) |
| (3) | 水道記念館広場 | <屋外> | 7月28日(木)～31日(日) |
| (4) | 青葉通り仙台駅前 | <屋外> | 9月23日(金・祝)～9月26日(月) |
| (5) | 元気フィールド仙台 | <屋内> | 12月10日(土)～13日(火) |

【全会場共通のコンテンツ】

地域の公園でも入手できる自然素材、家庭にある材料、仙台市の体育館が所持する運動用具、子育て支援団体の貸出遊具等を活用することで、「自分の地域でもこんな遊び場が欲しい」と思った市民が自ら取り組むことができる要素を取り入れた。

- <プレーリーダー> 子どもの内側から「やってみたい」という気持ちが引き出されるよう材料・道具・雰囲気を用意すると共に、全体の安全等を確認・維持するスタッフを配置した。
- <乳幼児親子スペース> 乳幼児が寝転ぶことができるシート・マットやおもちゃを用意し、乳幼児親子がリラックスできるスペースを設置した。
- <広々遊べるスペース> やや大きな動きのある遊びもできるスペースを確保して、ボールやバドミントンネットなどの道具類を設置した。
- <クラフトコーナー> 自然素材ほか、子どもが手を加えることで形が変えられる可変性のあるものを配置し、身近なものを中心に自由に遊べる軽クラフト、お絵描き等ができるスペースを設置した。
- <情報発信コーナー> 子どもの自発的な遊びを促す工夫や、周辺の遊び場情報等を掲示した。

3 アンケート調査内容

会場における紙面記入、Webアンケート、スタッフ聞き取りにて、以下の内容で調査を実施した。

- (ア) <利用者属性・会場利用実態> 利用者の居住区、一緒に来た子どもの年齢、情報の入手手段、来場手段、滞在時間、良く利用したコンテンツ
- (イ) <会場> 利用者の会場の満足度、会場で気に入った点及び物足りないと感じた点
- (ウ) <プレーリーダー> プレーリーダーのいる場の感想
- (エ) <ニーズ調査> 子どもにさせてあげたいと思う遊びで、出来ていること、出来ていないこと、出来ていない理由
- (オ) <その他> 自由記述

第3章 実施結果

1 各会場の実施結果

(1) **七北田公園** <子ども:375人、大人:330人 (計705人)>

新緑の時期の屋外遊び場として、自然を活かした遊びが生まれるよう環境設定を行った。障害の有無や年齢等を問わず交流しながら遊べるよう、インクルーシブ遊具を配置した。

【会場固有のコンテンツ】

- <インクルーシブ遊具> 障害の有無に関わらず、誰でも使える遊具を仮設した
- <樹木を使ったロープ遊具> 幼児向けの小ブランコと小学生も楽しめるモンキーブリッジを配置した



【会場の様子】

- 実証実験の実施を「知らずに来た」という回答が約4割で、公園の日常利用者の参加が多かった
- インクルーシブな遊具は、雨天時は遊具が濡れて滑ることを危惧し使用を中止した場面もあったが、天気の良い休日は入場に列ができるほど利用があった
- 広々と遊べるスペースは、家族連れやグループに多く利用された。プレーリーダーが大きなビニール袋を膨らませた風船を作った際には、それを真似して作る親子も増え、クラフトコーナーとの行き来も生まれた
- ロープ遊具は、子どもが自由に手を加えやすいようにあえて簡素な構造とした。ブランコを自作するなど、自分で遊びをつくり出す子どもも見られた。
- クラフトコーナーには見本やプログラムは配置しなかったが、休日の混雑時には用意していた材料がなくなるほど利用があった

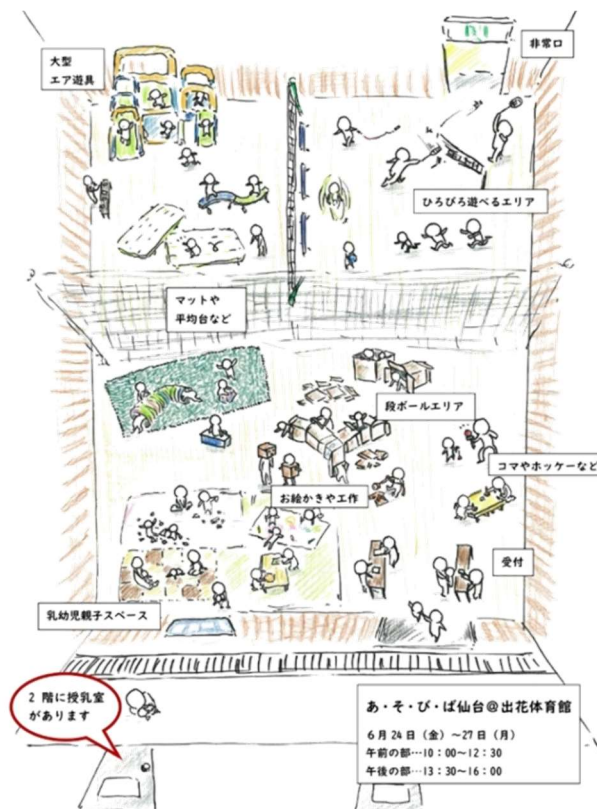
(2) 出花体育館

＜子ども:210人、大人:192人（計402人）＞

梅雨の時期の屋内遊び場として実施し、新型コロナウイルス感染症対策のため事前申込による人数制限のうえ、会場では検温を行った。

【会場固有のコンテンツ】

- <エア遊具> すべり台、空気で膨らませたビニールの中に入って遊ぶ遊具(定期的な空気入替えと人数制限を実施)などを配置した
- <段ボールエリア> 段ボールとガムテープを用意し、基地や迷路などを好きなように作れるエリアを配置した



【会場の様子】

- 期間中は30度を超える暑さが続き、送風機の稼働、休憩室の用意、定期的な水分補給の呼びかけなど熱中症対策を強化した
- 乳幼児の利用が多いことを想定し、手前側はのんびりと過ごせるエリアとし、走り回ったり、運動したり、アクティブに動くスペースは奥に設置した
- 細かい新聞紙を入れたビニールプールも人気で、大学生スタッフとの交流も多く見られた
- エア遊具は、目を引くので遊びの入り口として非常に効果的だったが、エア遊具だけに利用が集中するわけではなく、時間が経つと他のエリアにも広く分散していた
- エリア間の行き来により、子ども同士の交流や遊びのひろがり生まれた一方、多様な年齢層が混在する中プレーリーダーによる動線の整理が必要な場面も見られた

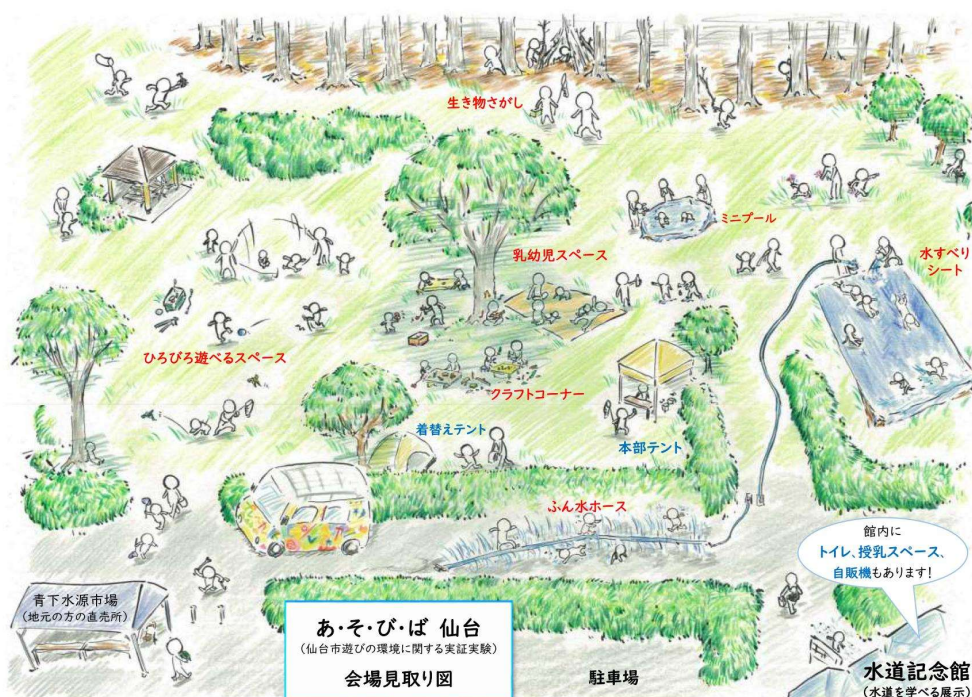
(3) 水道記念館

<子ども:223人、大人:180人(計403人)>

自然豊かな青下水源地における夏休みの屋外遊び場として実施。虫捕り・生き物観察などの自然に触れられるコンテンツ、仮設的な水遊び環境を用意した。

【会場固有のコンテンツ】

- <水すべりシート> 緩やかな傾斜のある芝生に設置したブルーシートにホースで水を流し、走りながら腹ばいになって滑る水遊び等を実施した
- <噴水ホース・ミニプール> 乳幼児向けに、農業用灌水ホースを転用した噴水ホース、ミニプールを設置した
- <自然遊び> 自由に使える虫捕り網を会場に配置した



【会場の様子】

- 噴水ホース・ミニプールは、水遊びに触れたことがない乳幼児が、水に触れてみる、入ってみるキッカケとなり、自然な形で年齢層ごとのゾーン分けがされた
- 水すべりシートは、プレーリーダーも積極的に遊びに加わったことで子ども同士の交流も生まれ、途切れることなく遊びが続いた。途中、水交換のための掃除をする際は、子どもたちが遊びの延長で一緒に行なった
- 家族で森の探索や、動植物を図鑑で調べることをきっかけに、プレーリーダーや他の家族との交流が生まれた。また、普段はなかなかできない遊びだという声も聞かれた
- クラフトコーナーは、水に浮かべる船づくり、他の遊びに必要なものづくりなど、工房の様な役割を果たした

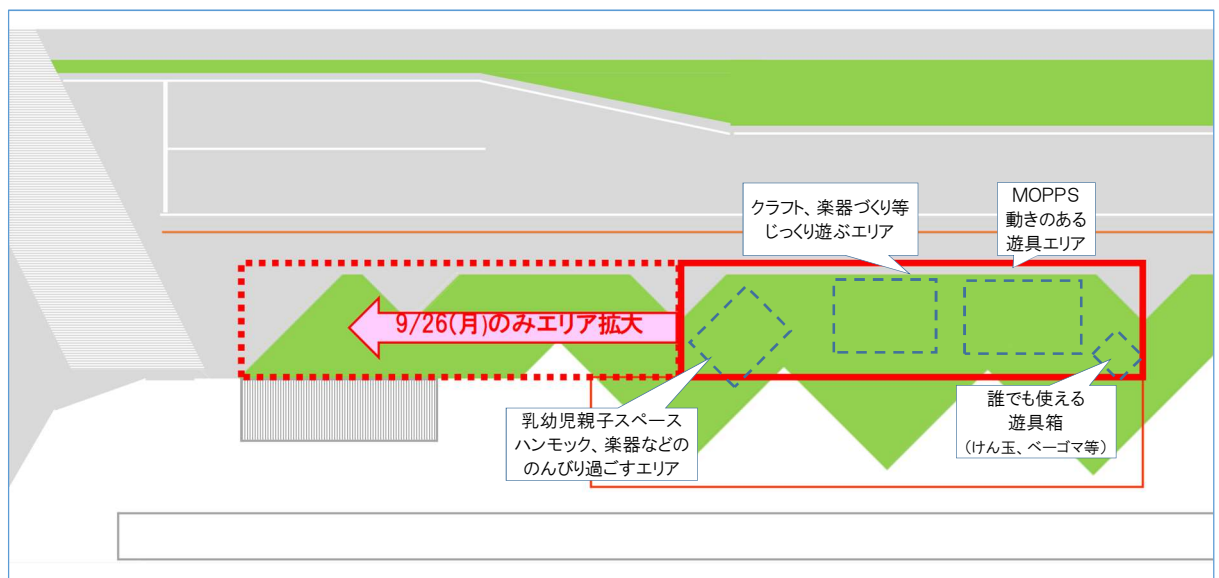
(4) 青葉通り仙台駅前エリア

<子ども:601人、大人:647人(計1248人)>

仙台駅前の道路空間(青葉通仙台駅前エリアで行われた社会実験)を活用した屋外遊び場。普段は立ち入ることができない道路空間での遊び、まちなかの賑わいの中の遊び場といった特別感のある会場とした。

【会場固有のコンテンツ】

- <大型ブロック遊具(MOPPS)> 自由に動かし組み合わせて、長い橋や秘密基地等をつくれる、大型ブロック
- <道路空間の活用> 交通規制したエデン前の車道2車線に人工芝を敷き、子どもが遊び、親子でリラックスできる場をつくる



【会場の様子】

- 情報の入手手段は web・SNS の 38%が最も多く、次いでその他(テレビ番組等を含む)が 36%となった
- 滞在時間は 30 分から 1 時間未満の回答が最も多く、全体の 8 割は 1.5 時間未満の短時間の利用だった。
- 地下鉄駅の目の前の会場のため、公共交通機関による来場者の割合が 39%と高かった
- 会場内は全面人工芝敷きで、隣接区画では生歌や自由に演奏できるピアノが設置されており、まちなかの賑わいの中で親子でくつろげる空間として機能した
- スタッフからの声かけによって、子どもを遊ばせている間の保護者同士の交流も生まれた

(5) **元気フィールド仙台**

＜子ども:236人、大人:217人（計453人）＞

冬季の屋内遊び場として実施し、新型コロナウイルス感染症対策のため事前申込による人数制限のうえ、会場では検温を行った。

【会場固有のコンテンツ】

- <エア遊具> すべり台、空気で膨らませたビニールの中に入って遊ぶ遊具(定期的な空気入替えと人数制限を実施)などを配置した
- <段ボールエリア> 段ボールとガムテープを用意し、基地や迷路などを好きなように作れるエリアを配置した
- <外遊びとの連動> 敷地内の芝生広場での凧揚げや落ち葉などの遊びを通じて、寒い時期でも外で遊ぶキッカケも作った



【会場の様子】

- 乳幼児親子スペースでは、ゆっくりと座りたい大人が腰を下ろしておしゃべりする空間にもなっており、交流の場となった
- ひろびろ遊べるスペースでは特に父親の参加が多く見られた
- クラフトコーナー、乳幼児親子スペース、段ボールエリアを近くに配置したことで、制作コーナーとしてエリアをまたいで遊ぶ姿が見られた
- 芝生広場から持ち込んだ枯葉や木の実での工作、エア遊具内での紙吹雪、段ボールで作った家を乳幼児スペースに移動してのままごと遊び、段ボールでの服作りや、乳幼児スペースで作った人形を駒に使ったボードゲームなど、自由な遊びが多数生まれた

2 アンケート調査結果

実施会場ごとのアンケート調査の結果を以下に示す。なお、調査内容「(エ) ニーズ調査」及び「(オ) その他自由記述」は、対象を実施会場に限らないため、会場ごとではなく全会場の集計とした。

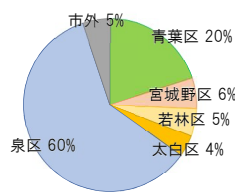
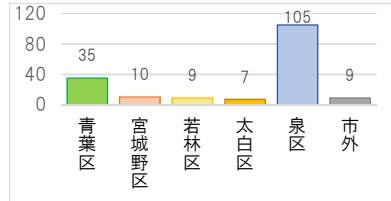
(1) 会場ごとの集計

① 七北田公園 <屋外>

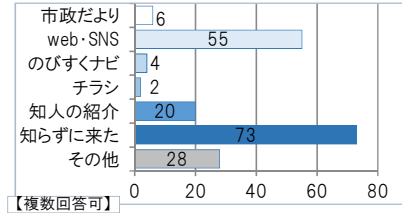
アンケート回収数177件

(ア) 利用者属性・会場利用実態

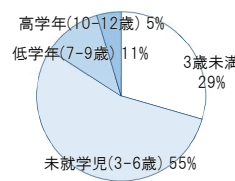
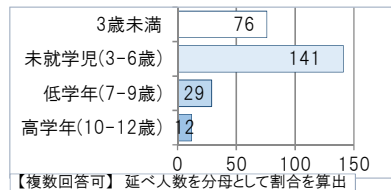
▼回答者の居住区 回答件数 175



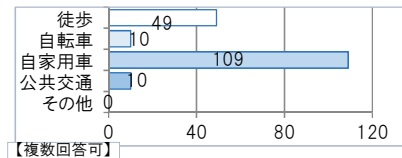
▼情報入手手段 回答件数 176、回答項目数 188



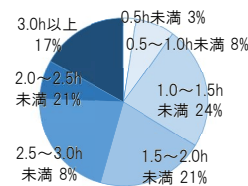
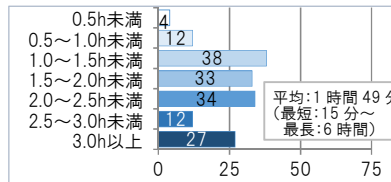
▼一緒に来た子どもの年齢 延べ 258人



▼来場手段 回答件数 176、回答項目数 178



▼会場滞在時間 回答件数 160

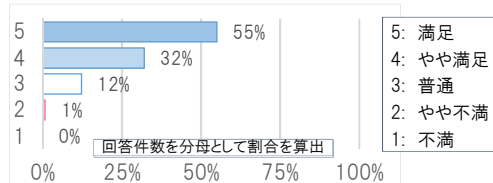


(イ) 会場の感想

▼会場全体の評価

平均4.41

回答件数 131

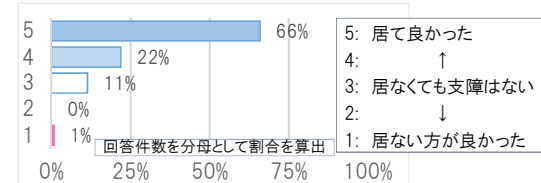


(ウ) プレーリーダーのいる遊び場の感想

▼プレーリーダーがいる場の評価

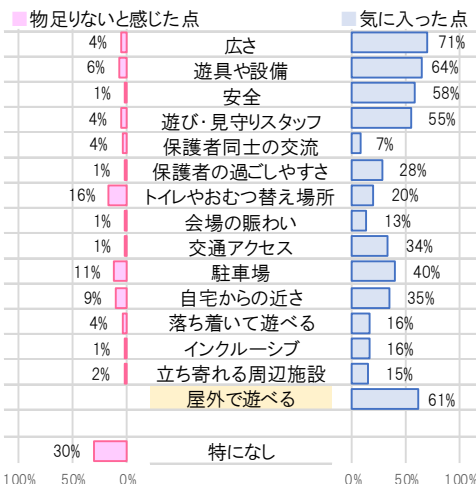
平均4.52

回答件数 132



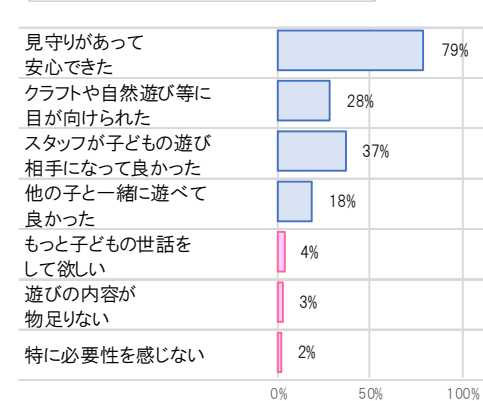
▼気に入った点、物足りないと感じた点 回答件数 163、回答項目数 1025

【複数回答可】 回答件数を分母として割合を算出



▼プレーリーダーがいる場の感想 回答件数 131、回答項目数 225

【複数回答可】 回答件数を分母として割合を算出

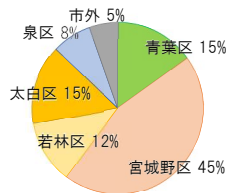
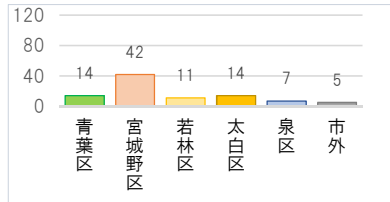


② 出花体育館

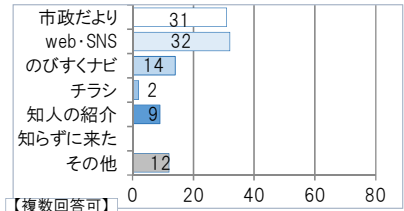
アンケート回収数94件

(ア) 利用者属性・会場利用実態

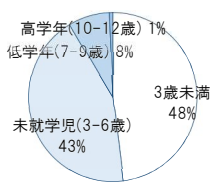
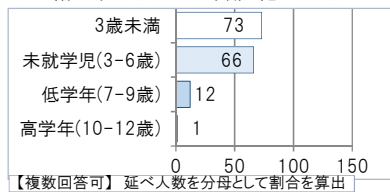
▼回答者の居住区 回答件数 93



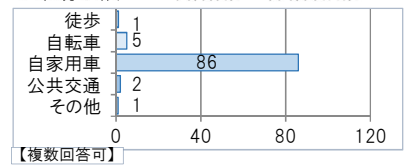
▼情報入手手段 回答件数 93、回答項目数 100



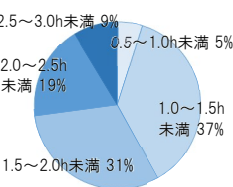
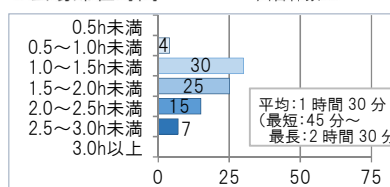
▼一緒に来た子どもの年齢 延べ152人



▼来場手段 回答件数 93、回答項目数 95



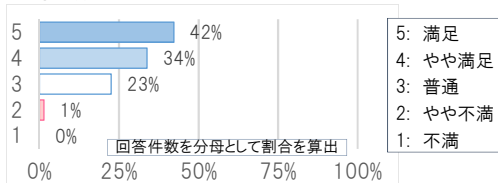
▼会場滞在時間 回答件数 81



(イ) 会場の感想

▼会場全体の評価

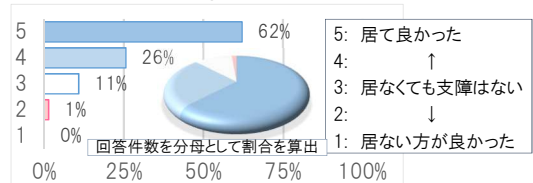
平均4.17 回答件数 71



(ウ) プレーリーダーのいる遊び場の感想

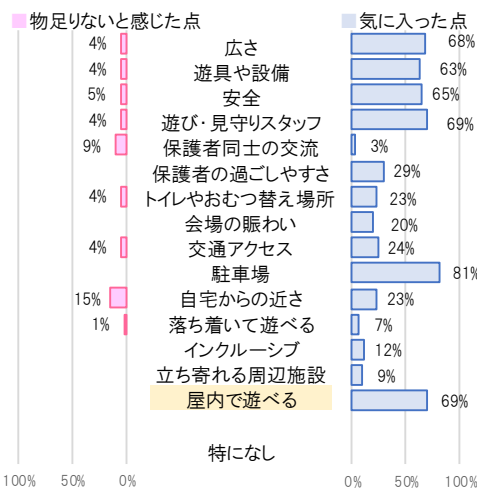
▼プレーリーダーがいる場の評価

平均4.49 回答件数 74



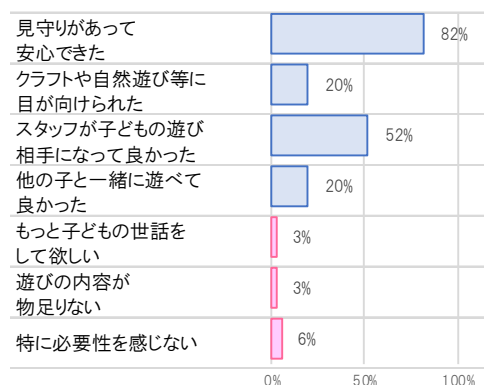
▼気に入った点、物足りないと感じた点 回答件数 75、回答項目数 462

【複数回答可】 回答件数を分母として割合を算出



▼プレーリーダーがいる場の感想 回答件数 71、回答項目数 131

【複数回答可】 回答件数を分母として割合を算出

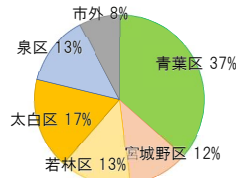
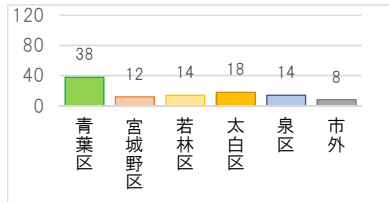


③ 水道記念館屋外広場

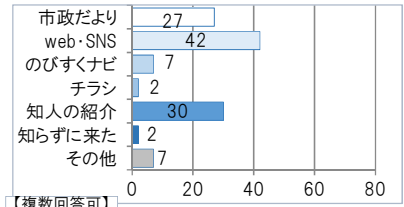
アンケート回収数 107 件

(ア) 利用者属性・会場利用実態

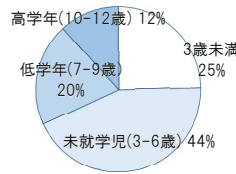
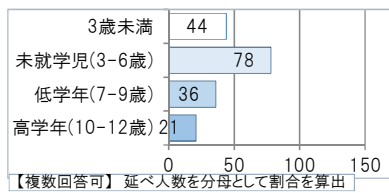
▼回答者の居住区 回答件数 104



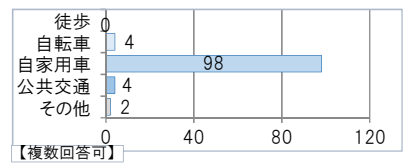
▼情報入手手段 回答件数 107、回答項目数 117



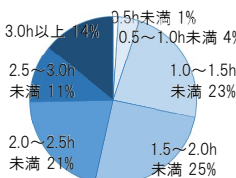
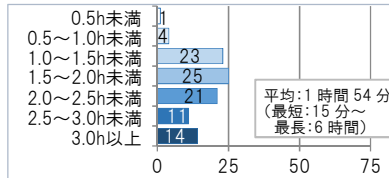
▼一緒に来た子どもの年齢 延べ179人



▼来場手段 回答件数 107、回答項目数 108

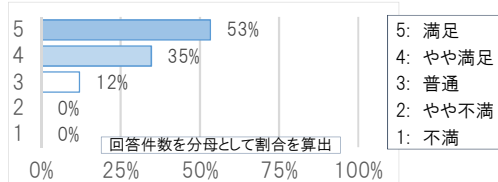


▼会場滞在時間 回答件数 99



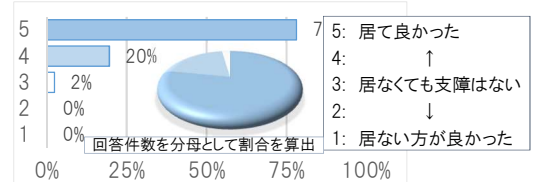
(イ) 会場の感想

▼会場全体の評価 平均4.41 回答件数 107

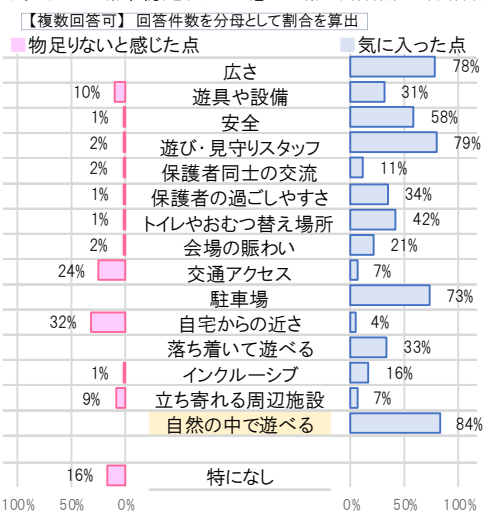


(ウ) プレーリーダーのいる遊び場の感想

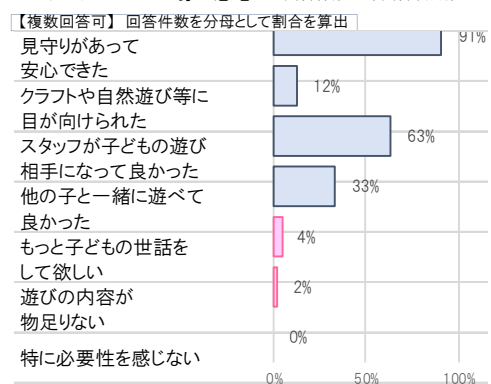
▼プレーリーダーがいる場の評価 平均4.76 回答件数 87



▼気に入った点、物足りないと感じた点 回答件数 91、回答項目数 618



▼プレーリーダーがいる場の感想 回答件数 90、回答項目数 186

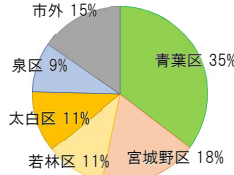
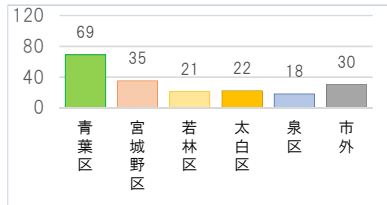


④ 青葉通仙台駅前エリア

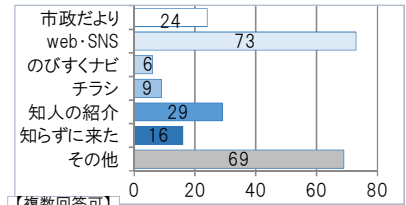
アンケート回収数 195 件

(ア) 利用者属性・会場利用実態

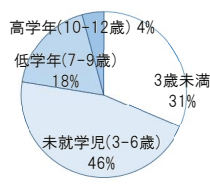
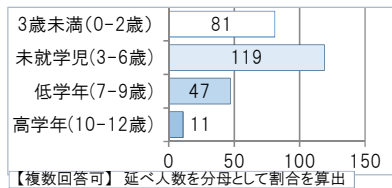
▼回答者の居住区 回答件数 195



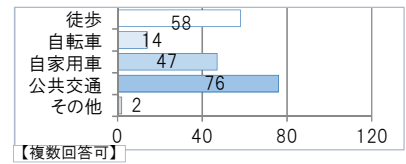
▼情報入手手段 回答件数 193、回答項目数 226



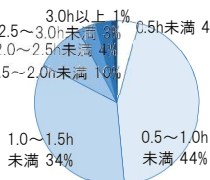
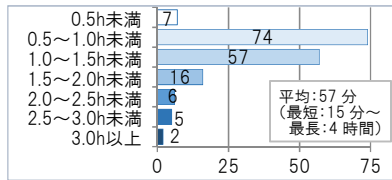
▼一緒に来た子どもの年齢 延べ258人



▼来場手段 回答件数 193、回答項目数 197

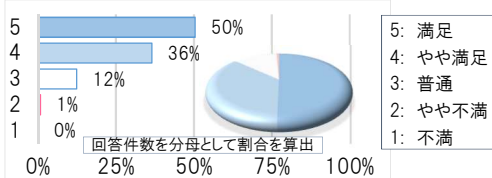


▼会場滞在時間 回答件数 167



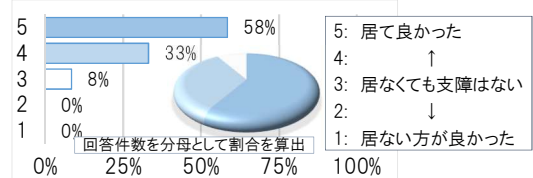
(イ) 会場の感想

▼会場全体の評価 平均4.36 回答件数 137

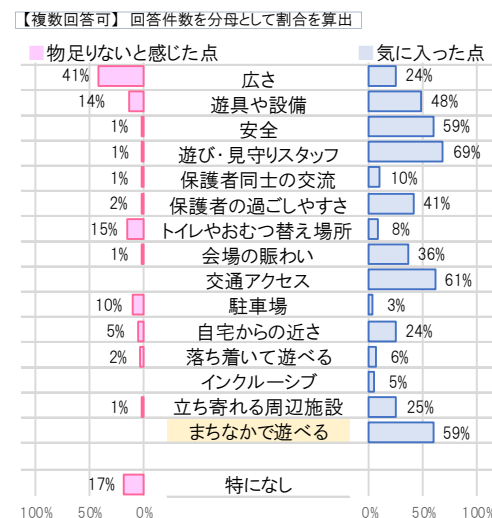


(ウ) プレーリーダーのいる遊び場の感想

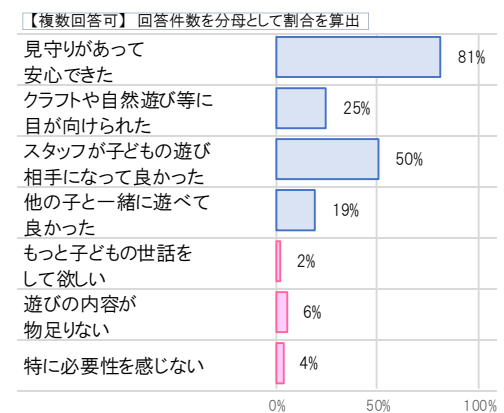
▼プレーリーダーがいる場の評価 平均4.50 回答件数 166



▼気に入った点、物足りないと感じた点 回答件数 173、回答項目数 1020



▼プレーリーダーがいる場の感想 回答件数 163、回答項目数 304

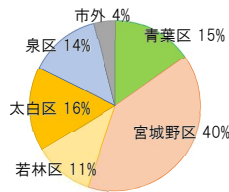
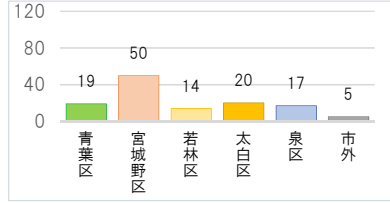


⑤ 宮城野体育館(元気フィールド仙台)

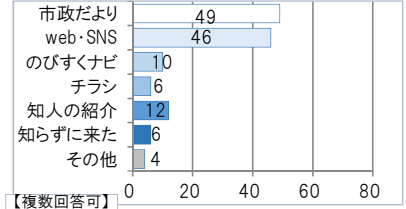
アンケート回収数 125 件

(ア) 利用者属性・会場利用実態

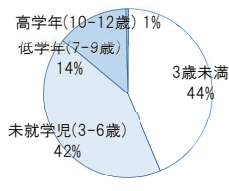
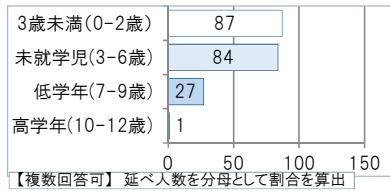
▼回答者の居住区 回答件数 93



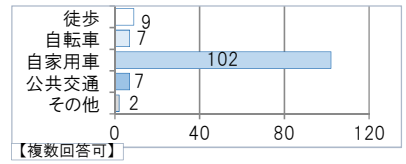
▼情報入手手段 回答件数 93、回答項目数 100



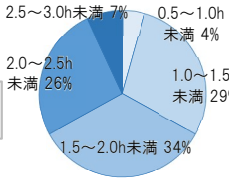
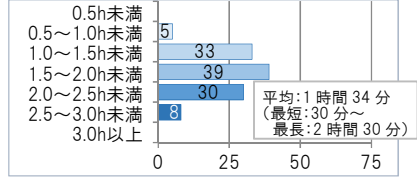
▼一緒に来た子どもの年齢 延べ 152 人



▼来場手段 回答件数 93、回答項目数 95

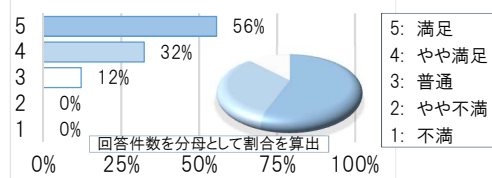


▼会場滞在時間 回答件数 81



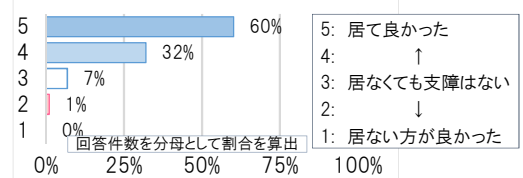
(イ) 会場の感想

▼会場全体の評価 平均4.43 回答件数 99

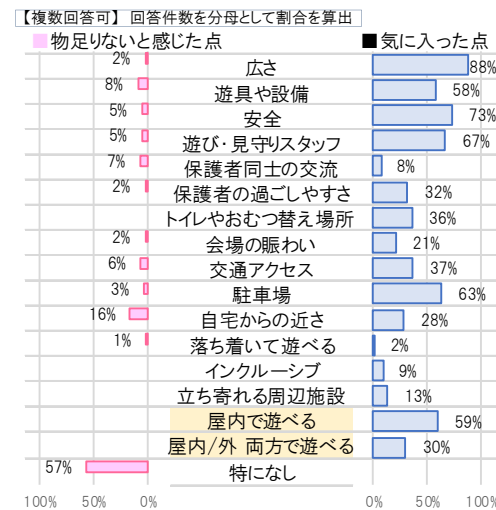


(ウ) プレーリーダーのいる遊び場の感想

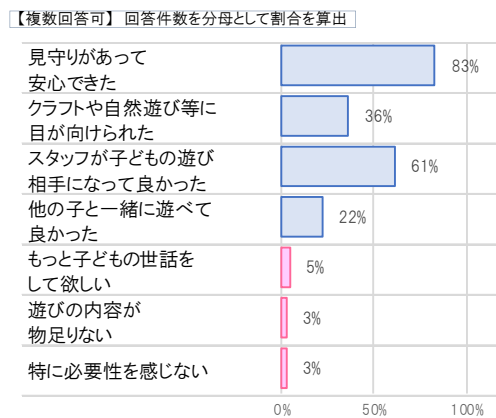
▼プレーリーダーがいる場の評価 平均4.51 回答件数 103



▼気に入った点、物足りないと感じた点 回答件数 106、回答項目数 780



▼プレーリーダーがいる場の感想 回答件数 100、回答項目数 213



(2) ニーズ調査（会場共通）

記述式で回答を求めた、子どもにさせてあげたいと思う遊びで「出来ていないこと」を遊びの内容・場所に関する項目で類型化し、上位3項目について「出来ていない理由」とのクロス集計を行った。

（遊びの内容に関する項目）

＜虫捕り・泥遊び等身近な自然に触れる遊び＞	： 26.2%
【理由】 場所が無い、遠い、場所を知らない	： 47.7%
【理由】 遊ばせ方が分らない	： 18.5%
【理由】 安全面に不安がある	： 14.6%
＜子ども同士での遊び＞	： 17.4%
【理由】 できる機会がない	： 35.0%
【理由】 感染症への不安がある	： 33.0%
【理由】 場所が無い、遠い、場所を知らない	： 22.0%
＜工作などの遊び＞	： 12.8%
【理由】 場所が無い、遠い、場所を知らない	： 40.5%
【理由】 安全面に不安がある	： 24.3%
【理由】 遊ばせ方が分らない	： 18.9%

※ 1件の回答であっても記述内容が複数に及ぶ場合は、該当する複数項目に分類している。各項目の割合はアンケート回答件数を分母として算出。（全項目の割合を足し合わせると100%を超過）
各理由の割合は当該項目への分類件数を分母として算出。

（遊びの場所に関する項目）

＜自然の中での遊び＞	： 28.3%
【理由】 場所が無い、遠い、場所を知らない	： 52.8%
【理由】 安全面に不安がある	： 29.4%
【理由】 時間が合わない	： 11.7%
＜屋内施設での遊び＞	： 12.3%
【理由】 場所が無い、遠い、場所を知らない	： 47.9%
【理由】 感染症への不安がある	： 35.2%
【理由】 利用料金が低い	： 12.7%
＜屋外施設での遊び＞	： 11.5%
【理由】 場所が無い、遠い、場所を知らない	： 50.0%
【理由】 安全面に不安がある	： 12.1%
【理由】 できる機会がない	： 10.6%

	子どもにさせてあげたいと思う遊びで、出来ていないこと	出来ていない理由													
		子どもだけで利用できない	時間が合わない	利用料金が低い	所を知らない	できる場所が無い・遠い、場	きかない	出来る道具がない、準備がで	できる機会がない	遊ばせ方が分らない	子どもに障害がある	感染症に対する不安がある	安全面に不安がある	準備や子どもの世話が大変	汚れる（又は衛生面が気になる）
遊びの内容	虫捕り・泥遊び等身近な自然に触れる遊び 26.2%	3.3%	11.3%	5.3%	47.7%	0.7%	6.6%	18.5%	0.7%	6.0%	14.6%	4.0%	5.3%	0.7%	8.6%
	子ども同士での遊び 17.4%	1.0%	14.0%	4.0%	22.0%	2.0%	35.0%	5.0%	0.0%	33.0%	12.0%	3.0%	0.0%	2.0%	6.0%
	工作などの遊び 12.8%	4.1%	14.9%	5.4%	40.5%	2.7%	12.2%	18.9%	0.0%	4.1%	24.3%	2.7%	2.7%	2.7%	10.8%
遊びの場所	自然の中での遊び 28.3%	3.7%	11.7%	2.5%	52.8%	1.2%	5.5%	11.0%	0.6%	6.7%	29.4%	6.7%	1.2%	0.6%	8.0%
	屋内施設での遊び 12.3%	2.8%	2.8%	12.7%	47.9%	1.4%	7.0%	2.8%	0.0%	35.2%	5.6%	2.8%	0.0%	1.4%	4.2%
	屋外施設での遊び 11.5%	1.5%	9.1%	6.1%	50.0%	0.0%	10.6%	3.0%	0.0%	9.1%	12.1%	3.0%	0.0%	9.1%	6.1%

(3) その他自由記述

※ 1件の回答であっても記述内容が複数に及ぶ場合は、該当する複数項目に分類している。各項目の割合はアンケート回答件数を分母として算出。(全項目の割合を足し合わせると100%を超過)

<会場に関する主な意見>

- プレーリーダーがいる場の遊び ……152件(42.1%)
 - ◇ 与えられた遊具で遊ぶのではなく考え自ら動いて楽しんでいて、とても良い時間だった
 - ◇ ロープ遊びでは、作るところから体験させてもらい、非常に喜んでた
 - ◇ 段ボール、新聞紙など手作りの遊び道具もあり、「お家でも作れるように、よく見てみよう」と子どもが言っていたことが良かった
 - ◇ プレーリーダーが体を張って遊んでくれたのがとても嬉しかったようだ
 - ◇ 1才でも遊べるものが多く良かった。有料でも毎週来たい
 - ◇ 遊び方や対象年齢が分からず、既存の遊具でしか遊べなかった
 - ◇ 子ども同士のトラブル回避や危機管理(転倒防止等)を積極的に行って欲しい

- 配置・設備・遊具、会場運営等 ……140件(38.8%)
 - ◇ 囲いがあることで目の届く範囲で遊んでくれるのでよかった
 - ◇ 乳幼児コーナーにオムツ替え用のポップアップテント等があると、わざわざ靴を履いてオムツ替えセットを持って遠くまで行かずに済むので助かる (屋外会場での意見)
 - ◇ 高学年向きのものもう少しあると良い (屋内会場での意見)
 - ◇ インフォメーションが小さく、何を楽しめば良いのか少しわかりにくかった
 - ◇ こういったイベントのお知らせを大々的にしてほしい
 - ◇ 写真に自分の子以外の子も写って良いか分からないので、写真の撮り方についてルールを提示してほしい
 - ◇ 食事するところや買うところの案内があるといい

- 保護者の安心、気づき、リラックス …… 25件(6.9%)
 - ◇ 公園で赤ちゃんをおろせる所があって、自分も休めるし、子どもも楽しめて良かった
 - ◇ 親が他の子をみていて手が離せない時でも安心して過ごせた
 - ◇ 休憩場所もあって、親にも優しい場所・イベントだった
 - ◇ プレーリーダーが気さくに話しかけてくれるのも、普段ワンオペの親は嬉しいし、リフレッシュになった
 - ◇ 今まで気づけなかった遊びや、子供の良いところに気づくことができた。見守ってくれるだけでなく、遊んでくれるのが嬉しい

<遊びの環境に関する主な意見>

- 自発的な遊びができる環境 …… 68 件(18.8%)
 - ◇ 子どもが学校帰りに自分で遊びに行ける場所があると良い
 - ◇ 日頃子ども同士で遊ぶ機会が限られるので、継続してこのような場があると嬉しい
 - ◇ 子ども達がのびのびと自分のしたい事を体いっぱい表現して遊べる場が身近にほしい

- まちなかで遊べる環境 …… 27 件(7.5%)
 - ◇ まちなかに、もっとこのような仕掛け(人、手作りの遊びの環境)があれば良い(水道記念館会場での意見)
 - ◇ 駅前に買い物に来た時、子どもが飽きたら遊ばせる場所があるのは良い
 - ◇ 仙台駅前だけではなく、長町駅や泉中央駅などでもやってほしい

- 屋内で遊べる環境 …… 21 件(5.8%)
 - ◇ 仙台は屋内で遊べる施設が少ない。雨天時や冬など、他の自治体まで行くことがある
 - ◇ 室内で広くて安全な場所が日常的にあると助かる
 - ◇ 市民センターの体育館などでもやってくれたらうれしい

- 屋外で遊べる環境 …… 9 件(2.5%)
 - ◇ 県内にこの様なあそび場がもう少し増えると嬉しい (七北田公園会場での意見)
 - ◇ 駅前エリアを単なる商業施設ではなく、公園や子連れの家族が集える場にしてほしい
 - ◇ 広い公園の中でこの様な機会があると良い (青葉通仙台駅前エリア会場での意見)

- 遊具・設備など …… 9 件(2.5%)
 - ◇ 仙台にインクルーシブ遊具がたくさん増えることを期待する
 - ◇ 車椅子駐車場のある公園に車椅子の子どもでも遊べる遊具があると良い

第4章 実証実験のまとめ

視点1 自発的な行為としての遊びが生まれる環境

- 会場の遊具・遊び道具等は、出来るだけ子どもたちが工夫により発展させられる余地を残したことで、運営側も想定していない遊び方が生まれるといった場面も見られた。
- クラフトコーナーなどでは、子どもや保護者から「遊び方が分からない」といった意見を聞く場面もあった。

視点2 会場に求められる要素

- 会場利用者は未就学児の割合が高かった。屋内施設の場合は約9割が未就学児で、特に3歳未満の子どもの利用割合が高くなる傾向にあった。自然の中の遊びを主とした水道記念館では、小学生以上の割合が3割を超え他会場と比較して高かった。
- プレーリーダーがいる場について、見守りがあることの安心感や、子ども同士の交流が促進されること、子どもの遊び相手になること等への評価が高かった。
- 小さい子どもがハイハイできるスペースにもスタッフを配置することで、小さい子ども連れで外出した際の保護者の休息、保護者同士の交流、何気ない雑談の中から子育てに関する不安・負担の軽減に繋がったことが、アンケートの自由記述からも伺える。
- 会場への移動手段としては、青葉通仙台駅前エリア会場を除くと6割から9割が自家用車であった。荷物が多いこともあり、家族で出かける場合の移動を自家用車に頼る子育て家庭の状況がみてとれた。
- 「気に入った点」又は「物足りないと感じた点」として、全ての会場で40%以上の回答があった、関心の高い項目は以下の通りであり、遊び場に求められる要素や機能とみることができる。
 - ✓ 思い切り体を動かして遊べる広さ
 - ✓ 安全に遊べる環境
 - ✓ 遊びを促し見守るスタッフ
 - ✓ 家族で出かける際の駐車場

視点3 遊び場として整備されていない場所の活用

- どの会場も7割から9割弱の人が満足またはやや満足と回答しており、遊び場として整備された場所でなくとも、コンテンツを充実させることで満足が得られた。
- 本実証実験のようなイベント的な実施についても継続を望む声は多い。

視点4 子育て家庭のニーズ

- 各会場の感想として、それぞれの会場特性に対応する項目が「気に入った点」として多く挙げられ、屋内・屋外・自然の中・都心部と、いずれの種類の間においても一定の需要があった。
- 「子どもにさせてあげたい遊び」で「出来ていないこと」のうち、遊びの場所に関する記述は、「自然の中での遊び」が28.3%と最も多く、次いで、「屋内施設での遊び」と「屋外施設での遊び」はともに約12%となった。遊びの内容に関する記述は、「虫捕り・泥遊び等身近な自然に触れる遊び」が26.2%と最も高く、次いで「子ども同士での遊び」が17.4%、「工作などの遊び」が12.8%となった。
- 自由意見では、「子どもが自然の中でいきいきと遊んでいる姿を見るのはいいものだ。」
「日頃子供同士遊ぶ場が限られるので、継続してこのような場があると嬉しい」「工夫した遊びが子どもの好奇心を掻き立てる」といった声があった。
- 「自然の中での遊び」「屋内施設での遊び」「屋外施設での遊び」「虫捕り・泥遊び等身近な自然に触れる遊び」「工作などの遊び」が出来ていない理由として、「できる場所がない/遠い、場所を知らない」がおおよそ半数を占める。
- 「虫捕り・泥遊び等身近な自然に触れる遊び」「工作などの遊び」「自然の中での遊び」では、「安全面に不安がある」や「遊ばせ方がわからない」が出来ていない理由の上位となっており、親自身に経験がないことが出来ていない一因と考えられる。
- 「子ども同士での遊び」と「屋内施設での遊び」では、出来ていない理由として「感染症に関する不安」が上位にあがっているほか、「子ども同士の遊び」では「出来る機会がない」という意見も上位であった。

視点5 会場を運営したプレーリーダーからの声

- 会場には子どもたちが手を加えられる余地を敢えて残すことで、想定していなかった遊び、何をしているか分からないが本人は熱中しているような遊びなどが、多く生まれた。
- 材料や道具があるだけの環境では「何をして遊ぶのか分からない」と感じる人もおり、丁寧に教えてくれる提供型の遊び場・体験プログラムが多くなっている社会状況とのバランスの調整が必要である。
- 子どもの遊びを促す雰囲気づくりよりも、もっぱら安全管理・トラブル回避の意味での「見守り」の役割を求めていると受け止められる回答も少なくなく、場のあり方や狙いなど、趣旨を伝える工夫が必要である。
- 主体的な遊びには、遊びや子どもに関する「知識」と、経験に基づく「技術」を備えたプレーリーダーの存在が重要であり、育成・トレーニングの仕組みが必要である。
- 保護者自身がプレーリーダーの視点を持つことによって、日常の子どもの遊びの環境が大きく改善されると考えられる。保護者向けの普及・啓発等の機会が重要である。
- プレーリーダーを配置する遊び場では、来場した子どもを見守る役割を保護者から引き取ってしまうのではなく、共に子どもを見守りながら、保護者に視点を提供する役割も必要である。

遊びの環境の充実に向けて

1 調査・研究及び実証実験から

令和2年度に実施した「仙台市遊びの環境に関する調査・研究」においては、遊びを「子ども自身の身体、心の自然な欲求に基づく、自らの成長を促す自発的な行為」と捉え、子どもの発達段階と利用頻度を軸として整理した。

▶ 高頻度の遊び場

家とその直近の環境、学校の校庭や児童館、近隣の公園など、週に数回程度の利用が想定される日常的な遊び場

▶ 中頻度の遊び場

地区公園や総合公園、各区の図書館、商業施設内の遊戯施設など、月に数回程度の利用が想定される遊び場

▶ 低頻度の遊び場

各種社会教育・文化施設、自然体験・農業体験施設など、レジャーやイベントの要素も含まれる年に数回程度の利用が想定される遊び場



令和4年度実証実験においては、実際に遊び場を仮設し、その効果を検証することとあわせて、遊び場に求められる要素や機能などのニーズを確認した。

屋内・屋外・自然の中・都心部と、様々な属性の会場で遊び場を仮設したところ、いずれも会場の属性に関連する項目で高い評価があり、遊びの「場」としては、それぞれにニーズがあることが明らかになった。

その一方で、「子どもがしたいと思う遊びや、保護者が子どもにさせてあげたいと思う遊び」のうち「出来ていないこと」として「自然の中の遊び」や「子ども同士の遊び」が回答の上位を占めたことは、自然の中でのびのびと遊ぶことで創造性や感受性を育み、子ども同士の遊びの中で社会性を身につけるなど、遊びを通して生きる力が育まれることを保護者が望んでいることの表れと受け止めることができる。

自然の中での遊びが出来ていない理由として「場所がない/遠い、場所を知らない」「安全性に不安がある」「遊ばせ方が分らない」という理由が上位となっており、子や親に経験がないことも影響していると考えられる。安全確保の視点を持ちながら遊びを促すプレーリーダーは、経験が少ない子や親をサポートし、後押しする存在として有効である。

また、子ども同士の遊びが出来ていない理由としては「できる機会がない」が最も多く、家の近くで遊ぶ機会や時間が確保できない状況も見て取ることができた。

2 遊びの環境の充実に向けた方向性

令和2年度調査では、遊びの意義を「何よりも心身の健やかな成長の礎を築くこと」にあるとしている。様々なニーズがある中で、本市の遊びの環境を充実させていくためには、子どもの育ちの観点から「遊び」の重要性に立ち返り、「日常的に利用できる」「自発的な遊びを促す」環境づくりに注力していく。

方向性1 プレーリーダーのいる日常の遊び場の普及

子どもたちが自分の足で行ける生活圏内に、子どもの自発的な遊びを促す環境を充実させていくために、プレーリーダーのように自発的な遊びを促しサポートするスタッフがいる遊び場を広げていく。

あわせて、遊びの当事者である子ども本人が自発的な遊びの楽しさに気づく機会や、保護者や地域の大人など多くの人が子どもの「やってみよう」という気持ちを引き出すプレーリーダー的な視点を持つことができる機会を提供していく。

方向性2 既存の都市資源の活用

遊びのコンテンツによって、自発的な遊びを促す環境づくりに寄与できることから、地域にある既存の都市資源を活用して環境を充実させていく。

方向性3 遊びの情報発信

令和2年度調査では、遊びの情報を求める声も聞かれた。イベント情報、民間事業者が運営する遊び場情報、近隣自治体も含めた遊び場情報などの発信を通し、遊びの機会の充実を図る。

方向性4 非日常の遊びの環境

レジャー的要素も含む非日常の遊び場にも多くの需要がある。

令和2年度調査では、都市規模を背景として様々な民間施設が存在すること、自動車での移動圏内には他自治体の施設も多く存在することが分かっており、適切な情報発信と合わせて、機をとらえて市民や民間事業者と協働・連携するなどの手法を探っていく。

3 今後の進め方

令和5年度は、プレーパーク活動等を行う団体に対する活動費の助成や、プレーパーク活動を立ち上げる団体に対するプレーリーダー派遣などの枠組みを構築し、自発的な遊びを促す環境づくりを進める。

また、既存の都市資源を活用し、プレーリーダーを配置した遊び場を仮設・運営するなど、プレーパーク活動を体験できる機会やプレーリーダー的な視点を知る機会を提供しながら、担い手の発掘にも繋げていく。

今後は、プレーパーク活動等の展開の状況を把握するとともに、子どもたちの生活圏内に自発的な遊びを促す場を広げていくため、地域にある既存の都市資源の活用や、地域の実情に応じた遊び場の運営の在り方について検討していく必要がある。

引き続き、子育て情報サイト「せんだいのびすくナビ」から遊び場情報を発信するとともに、プレーパーク活動等の情報を集約し、効果的な発信を行っていく。

あわせて、民間事業者の動きと連動させながら、遊びの環境の充実に取り組んでいく。